



男女共同参画推進室ニュースレター

olive・heart

1月23日 ワーク・ライフ・バランス実践講座のご案内

ほめ方の伝道師現る！



株式会社ビィハイブ代表
谷口祥子（たにぐち よしこ）氏



部下が上司がまわりの人が、
あなたのために3倍動いてくれる！？

仕事の効率化にむけた具体的なWLB実践方法として、リーダーに求められる意欲触発、モチベーションアップを促すコミュニケーション術、マネジメント法について具体的に学びます。

後輩に期待される先輩職員、先輩教員必見！

H26年1月23日（木）15：00～17：00

研究交流棟5階 研究者交流スペース



**ほめたい貴方、
ほめられたい貴方
講座必見です！**

目次:

ワーク・ライフ・バランス講座	1
新米パバママ講座報告	2・3
Afternoon Meeting vol.5	6
.....	4
優しい環境の大学に	5
デートDV防止研修会	6
次世代育成出前講座	7
みんなのための介護講座	8
第1回男女共同参画シンポジウム	8

学生に大講評でした！新米パパママ講座

新米パパママ講座の感想・印象に残った点



12月9日、県立中央病院で育児休暇を取得した、言語療法士の宮本寛さんを招いて、新米パパママ講座を開催しました。経済学部を中心に143名が参加しました。参加者は、男性の子育てや家事参加について、講師の熱い思いを聴きながら、新鮮に感動しながら、素敵な意見を残しています。

育児休暇について

・育児を取ることで共に子育てができるようになるということは男女の意識の差を縮めることにもつながるのだと分かった

・育児休業を取らなかったとしても、いろいろな休暇を使うことで対応できることを知ることができた点

・子育てをするには長期的な計画が必要ということ。子どもが生まれるという嬉しいことだけでなく、堅実な準備が必要だなと感じた

・夫のサポートというのは想像以上に一般的にはまだまだ浸透していないように感じるけれど、宮本さんのような「お父さん」が増えたら「お母さん」はとても楽になると思った

・こんなに想ってくれるパートナーを見つけたいと思いました
・こんなにも奥さんと子どものことを考えてくれて理解してくれて、辛いことも共感してくれる夫がいてくれたら心強いし、負担も少なくなつて、毎日が楽しそうだなと思いました

・育児を行うための男性の協力。女性と子どもを助けることができるのは男性⇒女性の立場で考えること
・何でも手伝えばいいというわけではなく、配偶者のニーズを聞きながら行うことが重要

・育児は夫婦が協力すれば、大変なことは半分になり、幸せなことは倍になって共有することができるので、将来パートナーになり得る人にはきちんと話し合ってお互いに理解していこうと思った

・月2回のパパデーを作り、妻の時間を創出していたのは良いアイデアと思った
・相手のことなどを理解するなど、考えが変わった



育児について

・夫婦で悩みを共有するという点。円滑な子育てに欠かせないと感じた

・出産、育児についてあまり考えたことがなかったので、今回の講座を受けて、実際に育児をしている人の話を聞くことで、これまでの「大変そう」というイメージが、「大変そうだけど、どうにかなるのかも」と良いイメージに変わった

・育児は1人だけでは大変だが、夫と一緒に2人だと大変な中でも楽しめるだろうと思った
・男性の協力あってこそ育児であるということが印象に残った

・最後のスライドショーを見てとてもほっこりした。家族との時間があることは非常に大切だと思った

・あまり既存の知識や枠組みにとらわれずに、1人の子どものように接していくのが重要な視点だと思った
・子どもが生まれた時に自分の人生が始まったという言葉

・子育ては大変そうだけどやりがいがありそうだった
・自分も良い父になりたい

・現状では男性の育児は限られた人だけになっているが、将来的に育児を希望する人が全員とれるようになれば良いと感じた

寄せられた制度や解決へのアイデア



環境の整備

育児休暇中には育児・家事の大変さを痛感。何もわからない状態で常に不安で心細く、でも逃げ出すこともできず、睡眠もろくにとれず、体力が未回復の状態で家事もこなし、たった1回泣き止ませるのも大変なこともある。もし、男性が「この経験」をしたなら女性に対して、育児・家事に対しての見方が変わると、宮本さんは話されました。

- ・育児休暇を取りたい人だけがとるのではなく義務化する
- ・育児休業を同時にとれる制度
- ・会社の育休制度、財力

・地域が助け合う地域での(コミュニティ)応援制度

- ・仕事優先になってしまうのは、そもそも人手が足りない、一人当たりの仕事量の負担が大きく、自分の時間が作れないというのが問題なので、全ての職権でそういった環境を整えなければいけない。
- ・パパと子どもだけが集まる場をつくり、他の父親と子どもと関わる時間をつくったら、時間も作れてパパ同士の不安や悩みを共有できる場ができるのでは

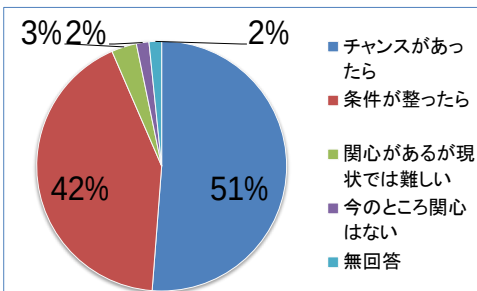
- ・職場からのサポート、休暇制度の充実
- ・誰でも気軽にとれる育休

- ・田舎にも大企業の誘致を行い過疎化を防ぎ、街に決まりきったシステムを作る

- ・食事など他、家事のためのヘルパー

- ・強制的に育休取得しても困らないぐらいの給料
- ・上司が休暇をとることに賛成する、反対しない環境

男性育児参加休暇取得への関心度



アンケート回答男性72名中

宮本さんは、現在も休暇を利用して検診やお祝いごとなどを行ったりしています。平日は出勤前まで関わるようにし、夜は少なくとも「お風呂」と「寝かしつけ」はしているそうです。月に2回、休みに子どもと2人で出かけるパパデーは、関係を深めるのに役立っているそうです。

- ・自分自身の準備が必要だと思う。制度はあることにはあるので個々の理解・努力が必要か

・経済的な準備

当事者

- ・職場からの理解を得るために、結婚した時からそういう話をしておく。調べて知識をつけておく。職場に迷惑をかけない努力をしておく

- ・たくさんの方が育児がどういうものであるかを理解することが重要だと思う
- ・やはり男性も育児をするという認識が拡大していけばよいと思う

- ・子育てに対する知識を得る機会を設けてほしい。子育てとは将来について最も重要なことであり、それを学ぶ場がないとあるとでは、その家族の過ごし方も変わってしまう

意識改革

- ・まず男女の意識を変えていくことが大切だと思います。意識を変えることで、制度や環境のニーズが自動的に出てくると思います
- ・男女が平等に見られるという社会の価値観

- ・男女共に子育ての大変さ、楽しさがわかる場ができた方がいいなと思いました
- ・会社が育休を取ることを快く承諾してくれて、育休終了後も気軽に職場復帰できるような雰囲気

- ・制度的な面は発達しているが、1人1人の周りの心理的な面が重要になってくる。理解してくれる人もいれば、理解することができない人はまだいると思うので、社会の当り前のできごととして育休が広がっていく必要があると考える

- ・休暇について、このような休暇があることを知らせる通知があったら良いと思った

- ・近い将来、子育てをすることになるであろう大学生に育児の大変さ、苦労、その苦労をどう解決するか、どのような制度があるかを前もって知ることができる機会が良いと思った。子育ての良さを伝えてもらえるのも良い



推進室のHPで学生の感想を紹介しています。

子育てはいいなあという思いが広がる講演でした。

ハラスメント相談員

お気軽にご相談ください。

小方 朋子	教育学部
宮前 淳子	教育学部
前原 信夫	法学部
佐川友佳子	法学部
大賀 睦夫	経済学部
朴 恩芝	経済学部
印藤加奈子	医学部
越智 百枝	医学部
長谷川修一	工学部
松下 春奈	工学部
野村 美加	農学部
吉原 明秀	農学部
塚田 修	地域マネ研究科
高塚 創	地域マネ研究科
三谷 忠之	連合法務研究科
大山 徹	連合法務研究科
星川 広史	医学部
井町 仁美	医学部
杉岡 正典	保健管理センター
岡本 晃	人事Gリーダー
安藤 俊弘	学生生活支援Gリーダー
長安めぐみ	男女共同参画推進室
尾松 俊嗣	国際Gサプリーダー
宗雪 裕子	法学部・経済学部
岡田 俊	医学部総務課長
三野 満子	医学部附属病院
中川 直子	農学部

がんばるパパとママ



Afternoon Meeting vol.5 開催報告

「週間を前にセクシュアルハラスメントを考える」

国家公務員は、セクシュアル・ハラスメント防止週間（12月4日～10日）を設け被害の防止に努めています。11月22日(金) 12:15～13:00、安心で安全な学内環境整備のために、今なにができるのか、週間を前に、法学部の平野美紀先生を囲んで、ハラスメント相談員が集まり意見交換をしました。時間が取れない方のために、11月20日14:40～17:00、22日13:10～17:00も引き続き意見交換会の時間を持ち、現旧ハラスメント相談員、管理職の方も合わせ、相談に対応する15名の教職員が集まりました。

出された意見として、ハラスメント相談員を画一的に部局に置くこと自体、無理が生じていること、相談記録・報告票に相談者の合意の署名が取られていないこと等、現状について意見が出された。相談体制としては、両性の平等に関して、きちんと対応できる専門窓口を常設する必要があること、相談窓口や相談の過程について学生への周知を徹底すること、また、相談の連携先である外部の第3者機関や警察等とも日頃から連携を取っておくこと、パワーハラスメントで起こりがちな「職務外の業務を強要すること」を本学のハラスメント規定に入れること。意識啓発として、学生の講義の中に、性暴力防止の内容を取り入れていくこと等、提案事項としてまとめ、第6回男女共同参画推進委員会に提案しました。ご協力くださった皆様ありがとうございました。



Afternoon Meeting vol.6 開催報告

「子育て中のお父さんへ」

12月3日、香川大学で初めて男性として育児休業を取得した岡田徹太郎先生を囲んで、男性の育児休業や子育てについて気軽に語り合う会を開催しました。香大っこサポーターの男子学生2名も加わり、男性6名、女性4名が集まりました。

子育て真っ最中の岡田先生の暮らしは、朝早いお連れ合いを送り出し、子どもたちを保育園へ送っていくことから始まるそうです。参加した教職員からは、業務の終了がいつも遅いので、平日は、朝

子どもが寝ているうちに出勤し、夜子どもと妻が寝ている所に帰るので、休みの日に子どもとの触れ合いを大切にしていること。東京から赴任した時と妻の出産が重なり大変だったこと。双子を育てるご苦労などが語られました。両立にむけては、パソコンを駆使して、グーグルカレンダーでお互いの予定を確認、調整し合ったり、スカイプ上で、単身赴任の父親が、自宅で留守番する娘たちの見守りをしたりしている様子が語られました。男子学生は興味深く聴いていました。

Afternoon Meeting 自主企画開催報告

「新工学部長を囲む会in工学部女性支援室」

12月2日、工学部女性支援室(平成25年6月新設の休憩室)において、新工学部長と女性教職員のランチ交流会が開催されました。10名の女性に囲まれ、男女共同参画推進室 副室長 石井明先生の司会で、和やかな会となりました。中西俊介学部長は、挨拶の中で、工学部では、女性が活躍できる環境を整えて行きたいと決意表明をされました。参加者から、先生の好きな場所はどこですか?と質問され、幸町キャンパスの木々に囲まれていると落ち着くこと、工学部キャンパスでも、木々を育てていきたいと話されました。新たに採用された女性教員の先生方も参加する中、学部長、女性職員の楽しい交流のひとつになりました。ただ、この部屋は、元情報サーバ室であったため、部屋の空調機は冷房機能しか付いておらず、会が始まる時は肌寒かったですが、集まった方々の熱気でクリアすることができました。(釜床美也子室員)

工学部女性支援室は

ソファ・

電子レンジ・冷蔵庫も完備

ゆっくりと休憩できます。

防寒対策にホットカーペットも導入する予定です。



優しい環境の香川大学へ

～大学運営特別経費を利用し、環境整備をすすめています～



olive・heart

休憩室を再整備します

「休憩室で、香大っこサポーター等を利用して、短い時間子どもを過ごさせたい」という声にお応えして、各部局の休憩室の再整備します。希望がある本部・教育学部・工学部の休憩室の備品整備を行っていきます。今後、短時間の託児等の活用にもご協力をお願いいたします。妊婦さんにも優しい休憩室にしていきたいと思います。



子どもが過ごせる休憩室を



病児移送の利用料を補助します

病児移送サービスの制度の周知にむけて、利用料を補助します。本サービスは、男女共同参画推進室への登録された方が対象です。(1月末登録締切)

対象年齢：保育所年長から小学生6年生まで

対象：病児移送サービスの登録を済ませた者(男女共同参画推進室へ要登録)

補助：上限2000円まで(大学運営特別経費を利用)

補助期間：平成26年3月31日まで 支払方法：振込(立替払の後に)

受付：男女共同参画推進室 内線1055 sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

＊「復職後に搾乳をトイレでしていました」という女性の声にお応えして、男女共同参画推進室では、女性に優しい休憩室をめざし、平成23年度部局の要望を取りまとめ、ソファや冷蔵庫などを整備し、妊婦の方には、搾乳機の提供も行っています。現在、本部・教育学部・農学部・医学部・工学部には、休憩室が整備されています。

＊香川大学病児移送サービスは、「どうしても急な仕事で休めない」「勤務のシフトで、病児保育施設に送っていくことができない」という声にお応えして、保護者に代わってタクシー乗務員が、病児保育施設に移送する日本初の病児移送として生まれました。



【サービスの流れ】

- ①病児施設の予約
- ②タクシーへ連絡
- ③移送完了の報告を受け、推進室に連絡

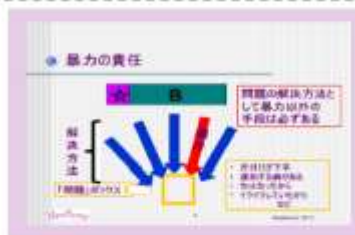


全学研修会・法学部FD「安心して働ける・学べる安全な環境作り ～デートDV防止研修会～」開催報告

講師：NPO法人レジリエンス代表 中島 幸子 氏

日時：平成25年11月20日(水)13:00～14:30 会場：南1号館3階 第31講義室

参加人数：95名(男性：57名、女性：38名／教職員：15名、学生：73名、一般：7名)



11月20日、昨年度に引き続き、NPO法人レジリエンス代表の中島幸子氏を招いて、全学研修会（法学部についてはFD）を開催し、デートDVはなぜ起きるのか、どういう関係に陥るのか、問題を抱えた学生等へのサポートについてお話いただきました。

研修会は「デートDV」・「DV」の不健全な関係性であること、健全なパートナーシップは二つの要素、1：対等であること、2：尊重しあうことが必要であることを学びました。デートDV・DVに限ったことではなく、暴力は、いじめの問題、子どもや高齢者に対する虐待、パワハラ、アカハラ等、同様に不健全な関係性の中で起きる。人が人を傷つけるという関係性の中ではパワー（力、力関係）とコントロール（支配）という概念が歪んだ形で存在している。Bさん（加害者：Batterer）が上で、☆さん（被害者：自ら輝いていく存在）が下に置かれるという上下関係が存在する。意見の差が大切に尊重されない場では、不健全な関係性が必ず潜んでいること等が示されました。暴力は誰かを支配しようとしたときに発生すること、そこには、自分にとって不都合が生じた時に誰かに暴力を振るって良いという特権意識の発想があり、特定の人たちを見下すという行為は、「差別」であると話されていました。

また、暴力の種類について、目に見えない形の暴力が多く存在していることに気づかされました。今回は、特に性暴力について取り上げられました。性暴力は様々なところで発生している割にはなかなか聞かえてこないし、問題視されていない。と言うのも☆さん(被害を受けた人)たちの多くはそれを訴えられない現状がある。多くの場合、誰かに相談した時に「一緒に飲みに行ったのでしょうか」、「つきあっているんでしょう」と被害にあった人が責められるような仕組みが今の社会にはあった。なぜ性暴力だけが、まず☆さんに責任を問うところからスタートしているのかについて、もっと考えられる人

たちが増えなければ、この社会的構造は変わっていきなないと指摘されました。そして、知らない人からの性暴力より、知っている人からの性暴力が圧倒的に多い現状を踏まえ、性暴力を測る概念として性的自己決定権「自分の体は自分のもの」という権利に言及しました。これは、人間として誰でも持っている権利であり、誰が自分の体を見るのか、だれが自分の体に触れるのかは、自分が決めるもの、生きている間、持ち続けたいといけなく、大切にされないといけなく権利であると強調されました。

デートDVは、身近に起こり得る問題で、☆さんが相談する相手、友人が☆さんの心理的な影響を理解することが重要です。中島氏は心に深く傷跡が入った場合、☆さんがBさんから離れて時間が経過したからと言って消えていくものではない。デートDV・DVは、暴力があるからコミュニケーションが不可能になる。出来事の記憶が蓄積する脳の「海馬」は、強烈なストレスを感じたときに機能しなくなる。危険であっても、別れと復縁を繰り返すことなど、平和で安全な世界にいる人からは理解されにくい☆さんの心理について詳しく説明されました。

中島氏は「自分を幸せにする力は一一人の中にある。誰かを探し続けていたら自分の力を見落としてしまう。自分のことを一番良く知っているのは自分だということを忘れないで」とエールをおくられました。さらに「カウンセラーや学校の先生などが言うことに対して違和感を感じたら、その違和感を大切に、理解してくれる人じゃないと思って次の人にあたること」とアドバイスされました。

生きるということは、ものすごく大変で、必死にならないといけない時もある。その時に1人だけで抱え込むのではなく、周りに理解者が増えればその人は楽になる。「尊重を増やしていく」という意識が一人でも多くの人に芽生えることを願いました。

女性研究者次世代育成プロジェクト 第3回出前講座 ～あなたの未来をデザインしてみましょう～

講師 永合 由美子 氏 東京大学 工学系研究科/工学部 広報室

平成25年11月18日(月)15:45～17:45 高松市立高松第一高等学校ムジカホール 合計142名参加



講師 永合 由美子 氏

11月18日(月)高松第一高等学校ムジカホールにおいて、進路の選択の幅を広げ自身の可能性について考え、男女共同参画の観点から、将来の職場と家庭でのパートナーシップを考えてもらうことを目的に、リケジョを目指す生徒を対象に出前講座を開催しました。

今年で3回目となる今回は、講師に東京大学工学系研究科/工学部広報室の永合由美子氏をお招きしました。

永合先生からの大きなメッセージは「自信を持つこと」と「チャレンジしよう」。(財)日本青少年研究所の調査によると、日本の中高生は他国と比較して「自分が価値ある存在だと思っている」割合は8%で、低い傾向が明らかになりました。一人一人は大切な存在です。自信を持っていることは素敵なことと思してほしい、また、「失敗が人を育てる」のでいろいろなことにチャレンジしてほしいとエールが送られました。

そして、ご自身の会社経験から1番大事なのは「やりたいこと(価値観)」、「やりたいこと」を1番に考えてほしいとのアドバイスとともに“can” “will” “must”の交点で自分のやりたいことを見つけられるとHappyになる確率は高いことを示してくださいました。

リケジョは本人の意志を持って選び取って勉強している人たちなので就職しても即戦力として役に立ち、「希少価値が高い」、「素敵な人が多い」と企業評価が高く、今、企業のリケジョ争奪戦が繰り広げられていると、リケジョは就職においてもおススメと強調されました。さらに、会社では社内異動も多く、1つの会社でも色々な経験ができると、企業における研究者の魅力も語ってくださいました。



仕事、家庭、市民活動と年齢や場面で様々な役割を担いながらキャリアを形成し「広い視野で、多面的な生き方が魅力！」と話される永合先生のお話にたくさんの生徒たちが引き込まれていました。1つのところで人間関係がうまくいかなくても別の場所を持っていれば、そこで活躍できるし、キラキラ輝ける場所がある。リケジョの魅力だけにとどまらず、人生の指針となる助言を得ることができ、参加者が希望の持てる講演会となりました。

永合先生の講演の後、釜床美也子助教、大学院生の松尾朋子さん、石田茜さんによるご自身の研究内容の紹介、工学部 石井明教授による工学部の紹介がありました。参加した生徒からは、工学部と工学系進路について具体的に知ることができた と好評でした。



司会 長安コーディネーター



教頭先生よりご挨拶



石井教授による工学部の紹介



釜床助教による研究の紹介



講座終了後、熱心な生徒たちからの質問に答える講師の先生方



松尾朋子さんによる研究の紹介



石田茜さんによる研究の紹介

●工学部は男のイメージがなくなって、今は女性の力も生きる時代だということがよくわかりました●身近な製品について説明してくださって、工学について理解が深まった●今までの理系に対する見方がとても変わった●理系を選択して良かったと思った●理系女子のすばらしさを感じられた●理系女子を目指したいと思いました●科学者を身近に感じる事ができた●女性が理系に進むことで、将来はいろいろとメリットがあることがわかってよかったです●将来について、しっかり考える機会が持てた●自分の夢に対して自信を持とうと思えた 【アンケートより】



我が国の高齢者の割合は現在10人に1人。2030年には5人に1人になると推計されます。働き盛りの40代～50代のリーダー世代の介護負担増は、職場にも大きな影響を与えます。「老老介護」、「息子介護」、「シングル介護」、「遠距離介護」、「週末介護」、「夫婦介護」、男性も女性も、それぞれの立場の中で、仕事と介護の両立を健やかにどう図り、それにどう備えるか？今回は大学の男女共同参画の課題として介護問題を考えます。男性介護の問題を専門とする津止正敏先生のご講演と、困難の多い認知障害を持つ高齢者へのケア本を執筆した清水裕子先生との質疑を交えた対談を通して、情報を共有し、深めましょう。



参加無料

今から備える、男性も女性も、みんなのための介護講座

講演「オトコの介護を生きるあなたへ～おひとり様でもおふたり様でも～」

日時：**平成26年2月3日(月) 15:00-17:00**



場所：香川大学研究交流棟5階 研究者交流スペース

対象：香川大学教職員・学生・近隣の企業・市民の方

講師：立命館大学産業社会学部

現代社会学科社会学研究科 津止正敏 教授



【当日の流れ】

司会 教育学部 岡 晋平 室員

15:00～開会の挨拶 石井明 副室長

15:10～講演「オトコの介護を生きるあなたへ～おひとり様でもおふたり様でも～」

16:10～対談「色々な立場を包括する介護支援のあり方」 津止正敏 教授

香川大学医学部看護学科 学科長 清水裕子 室員

16:50～講評 山神真一 教育学部長

香川大学 第1回男女共同参画シンポジウム

優しい環境の香川大学へ

～働き続け、学び続けるあなたを応援します～

2014年2月14日(金) 10:00～15:30

香川大学 研究交流棟5階 研究者交流スペース【幸町キャンパス】

第1部 10:00～ シンポジウム 学部長による各部局の取組発表など

第2部 12:15～ ランチ交流会(軽食あり)

第3部 13:30～ ワールドカフェ「輝く女(ひと)inかがわ」

*第3部は、内閣府・香川県事業「平成25年度地域における女性活躍促進事業」として実施



香川大学 男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階



電話：087(832)1055
内線：1055
ファックス：087(832)1057

<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/>

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp